

東京都地方独立行政法人評価委員会
令和4年度第3回試験研究分科会 議事録

1. **開催日時**：令和4年7月20日（水）17：00～17：25
2. **開催場所**：東京都庁第一本庁舎33階特別会議室N2
3. **出席委員**：波多野委員、大橋委員、鈴木委員、武田委員、林委員
4. **議題**：令和3年度業務実績報告
5. **議事**：

午後5時00分 開会

【事務局】 本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより分科会を始めさせていただきます。

私、事務局を務めさせていただきます、東京都産業労働局商工部課長代理の小坂田と申します。分科会長に司会を引き継ぐまで、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、事務局より本分科会の委員定足数についてご報告をいたします。

東京都地方独立行政法人評価委員会条例第7条第3項及び第5項では、分科会は委員の過半数の出席で開催できるものとされております。本日、分科会委員5名の皆様全員にウェブでのご出席をいただいておりますので、本分科会は有効に成立していることをご報告させていただきます。

それでは、早速でございますが、第3回分科会を始めたいと思います。

波多野分科会長、進行をよろしくお願いいたします。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。皆様、こんにちは。

それでは、ただいまから東京都地方独立行政法人評価委員会令和4年度第3回の試験研究

分科会を開催いたします。

まず、議事に入ります前に、本分科会は公開となっておりますので、議事録につきましても、ホームページにて公開になりますことをご了承お願いいたします。

それでは、早速議事を進めてまいります。

なお、説明資料につきましては画面共有にて反映させていただきます。

本日の審議事項でございますが、「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター令和3年度の業務実績評価について」を予定しております。皆様、よろしくをお願いいたします。

では、初めに、事務局から配付資料と、審議の進め方について説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。

メールでお送りしました資料は、二つのPDFのデータにまとめさせていただいておりますが、配付資料は全部で4点ございます。

まず、資料1-1、令和3年度業務実績評価（評価説明用）、資料1-2、令和3年度業務実績評価（全文）、資料2、令和3年度業務実績評価に対する評価委員会の主な意見、資料3、令和4年度試験研究分科会開催スケジュールでございます。資料1-1、資料2、資料3を一つのデータとしてまとめております。

資料の不足、送られてない等がございますでしょうか。

それでは、本日の審議の進め方についてご説明をさせていただきます。

まず、令和3年度業務実績評価につきまして、事務局から説明をいたします。その後、質疑応答を行います。次に、評価の決定に対する分科会としての主な意見について、事務局から説明をし、その後、質疑応答を行います。最後に、今後のスケジュール等について、東京都から説明をさせていただきます。

事務局からの説明は以上でございます。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。

それでは、資料1-1、令和3年度業務実績評価について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、令和3年度実績評価について、事務局からご説明させていただきます。

本分科会の開催に先立ちまして、7月4日、5日に第2回試験研究分科会を持ち回りで開催いたしました。委員の皆様から様々なご意見を頂戴いたしまして、その結果を踏まえ、各項目の評価を取りまとめておりますので、本日は委員の皆様の意見を評価に反映した箇所を

中心にご説明をさせていただきたいと思っております。

さらに、令和3年度業務実績評価の総括として、全体評価も作成しています。併せてご説明させていただきます。

まず、全体評価です。資料1、令和3年度業務実績評価の全体評価をご覧ください。

全体評価は、中期計画の達成に向け、優れた業務の進捗状況にあるとしてA評価相当としました。こちらにつきましては、委員の皆様から妥当との意見をいただいているところでございます。

次に、高く評価すべき事項として3点挙げさせていただきました。

1点目は、産技研全体として研究開発や技術支援の両面で目標達成に向けしっかり取り組んでいただいたという点です。依頼試験や機器利用、そして基盤研究など、年度計画の目標数値を上回る成果を出していることや、技術支援を通じて製品開発支援ラボに入居している企業の製品化、事業化の実績数が過去最高になった点や、博士号を取得することで専門領域を広げ、製品化を実現した点を評価しました。

2点目は、基盤研究において海洋プラスチックごみによる環境問題や感染症対策など、社会的課題解決に資する分野の研究に取り組み、成果までしっかり出している点、また、外部資金導入研究において、引き続き高い歳入総額を確保していることに加え、研究成果の普及啓発にも努めている点などを評価しました。

3点目は、社会的課題解決支援において、こちらも環境問題の対応になりますが、紙や木などの天然素材と生分解性プラスチックを用いた繰り返し使用可能な食品容器の製品化に貢献した点、また、東京2020大会に向けて、例えば車椅子バドミントン用の車椅子の軽量化、機動力の向上に成功した結果、この車椅子を使った日本人選手のメダル獲得に貢献し、また、さらに東京2020大会のレガシーである用具の開発の過程で得られた知見を生かし、一般障害者向けスポーツ用具の研究開発に向け取組を進めている点を評価しました。

一方、改善・充実を求める事項として、2点挙げさせていただきました。

1点目は、情報発信の推進です。

機関誌のオンライン配信を開始し、それに併せて発行回数を2回に増やすなど積極的な情報発信に取り組んだ結果、例えばユーチューブのチャンネル登録者数やツイッターのフォロワー数が増加するなど、少しずつではありますが、成果を上げつつあると考えています。しかし、産技研のさらなる認知度の向上は必要と考えます。

委員からも、もっと積極的に取り組むべきと意見をいただきましたので、その点を反映さ

せていただきました。

2点目は、DX化の推進です。

昨年度も同様の意見を記載し、産技研として取り組んでいただいた結果、例えば技術相談の件数の集計を、単に件数を追うのではなく、相談内容に着目した内容に変更した、委員のご発言を借りれば、数字により意味を持たせる取組への変更を行ったという点につきまして評価いたしました。コロナ禍の中、業務のDX化は重要な取組ではありますが、今後は単に業務のデジタル化にとどまることなく、分析・活用するなど、さらに一步進んだ取組が必要と考えます。

委員からも同様の趣旨のご意見がございました。その点を反映させていただきました。

以上の点を考慮し、全体評価を作成いたしました。

引き続き、項目別の評価に入らせていただきます。次のページをご覧ください。

第2回試験研究分科会でご説明させていただきました全体の評価数、S評価が2、A評価が8、B評価が10、そして項目ごとの評価に変更はございません。

全体評価と同様に、委員の皆様から妥当とのご意見をいただいているところでございます。続いて、項目別に説明させていただきます。

冒頭にお話ししたとおり、委員の皆様の意見を反映した箇所を中心にご説明させていただきます。反映した箇所は青字で表記してございます。

申し訳ありません。ページが飛びますが、項目14、食品産業への支援です。

委員から金賞を受賞した純米酒の取組成果のインパクトが弱い、具体的な成果が見えないとの意見を承りましたので、評価ポイントを追記させていただいたところでございます。また、別の委員からは食品ロスをはじめとする社会的課題解決に産技研が積極的に関与していくことがよいのではと意見を賜りましたので、今後期待する事項の記述を修正しました。

次が項目15、産業人材の育成です。

委員からは、中小企業では人材の育成が課題であり、最先端の技術等に触れる機会が少ない。そのため、この取組は非常に重要な項目であり、引き続き産業人材の育成に力を入れてほしいとのご意見を賜りましたので、表現を表記のように修正いたしました。

次は項目16、情報発信の推進です。

委員からは、もっと積極的に広報を実施すべきと、先ほど申し上げましたが、ご意見を賜りましたので、表現を修正してございます。

簡単ではございますが、資料1-1、令和3年度業務実績評価の説明は以上でございます。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。

改めて、委員の皆様から何か全体、あとは個別につきましてご意見、ご質問などございますでしょうか。ございましたら、どうぞご発言お願いいたします。

この修正もいただきましたけど、いかがでしょうか。

【林委員】 林です。

【波多野分科会長】 林委員、お願いします。

【林委員】 特に改めて意見はないです。

【波多野分科会長】 武田委員、いかがですか。ありがとうございます。

【武田委員】 私も、私の意見も取り入れていただいたようなので、特にこれ以上申し上げることはございません。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。鈴木委員、いかがでしょうか。

【鈴木委員】 私も全部、入念にこれチェックしましたので、もうこれで結構です。

【波多野分科会長】 大橋委員、いかがですか。

【大橋委員】 はい、私も異存ございません。

【波多野分科会長】 私、波多野も異存ございません。ありがとうございます。反映いただきました、ありがとうございます。

【事務局】 それでは、引き続き資料2について説明させていただきます。

【波多野分科会長】 資料2、令和3年度業務についての意見についてお願いします。

【事務局】 委員の皆様からいただいた様々なご意見を元に、大事な、重要な部分の事項を集約しまして、評価を決定するに当たって、評価委員会の意見をこのような形で取りまとめました。

まず、最初が全体評価についての記述です。

全体評価は、先ほどご説明したとおり、産技研の業務状況は優れた業務の進捗状況にあるとしていますが、今後の業務運営に当たって、以下の事項について留意していただきたいというふうに考えてございます。

一つ目が、SDGsなどの社会的課題解決に資する取組を積極的に進め、具体的な成果を積極的に発信していただきたいという意見です。

産技研としていろいろな活動をしていることは理解しますが、もっとSDGsのこの項目にこれだけの成果があったということを出していかないと、「やっています」「やっています」ということにつながってしまうというご意見をいただきましたので、この点を反映させ

ていただきました。

二つ目が、積極的な情報発信と適正な情報管理という意見です。

情報発信につきましては、先ほども触れましたが、もっと積極的に広報を実施すべきとのご意見を反映させていただきました。

また、適正な情報管理につきましては、サイバー攻撃を受けた組織はかなり大きなダメージを受けることから、セキュリティー面も含めた情報の管理については、産技研としてまだまだやらなければいけないという点があるというご意見をいただきましたので、この点を反映させていただきました。

三つ目が、食品研が産技研に組織移管されたことに伴い、産技研として、食をめぐる様々な課題に取り組んでほしいというご意見です。食品研が統合された初年度でもあり、その効果はこれからという意見をいただいております。

先ほども触れましたが、統合を機に食品ロスをはじめとする社会的課題解決に産技研の総合力を生かして積極的に関与していくことがよいとの意見をいただきましたので、この点を反映させていただきました。

四つ目が、女性活躍の取組を推進し、積極的に発信していくという意見です。

昨今、社会的にもジェンダーや女性活躍といった男女共同参画にフォーカスした取組が企業に求められていることから、産技研としましても取組を考えてよいのではという意見をいただきまして、この点を反映させていただきました。

さらに、第4期中期目標及び中期計画の達成に向けて、先ほどの改善・充実を求める事項で触れた点と重複いたしますが、都産技研の様々な事業分野で今後もDX化を進めていく必要があること、また、技術相談等のデータを分析、蓄積することで、都産技研へのニーズを的確に把握し、支援業務に生かしていく必要性を意見としてまとめております。

以上のような形で全体の取りまとめをいたしました。

そのほかにも、委員の皆様から今後に向けて様々なご助言を承っておりますので、引き続き産技研と意見交換を行ってまいりたいというふうに考えております。

簡単ではありますが、私からの説明は以上でございます。よろしくご審議お願いいたします。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。評価委員会の主な意見をおまとめいただき、ご説明いただきました。

個別にも表にいただいておりますけど、何かご意見、ご質問などございますでしょうか。

【林委員】 お世話になります、林です。

【波多野分科会長】 林委員、お願いいたします。

【林委員】 SDGsにも取り組むという表現が入っているんですけども、2050年までに実質排出ゼロというような目標が国の目標でもあるわけですね。

中小企業も非常にそのゾーンについて、2030年に半減をする、2050年までには実質ゼロにするといわれても、なかなか中小企業、何をやったらいいのというところが分からないところだと思うんですね。

ですから、ぜひ産技研さんにリーダーシップを取っていただいて、具体的な、こういったことをやるとこれだけ削減できますよといった研究開発というか、先進的な取組というか、そういうのをお願いしたいなとは思っているところなんです。

ですから、もう少しSDGsよりもさらに突っ込んだ、地球温暖化防止のための具体的な活動を都産技研として進められたらどうかという気はしています。

以上です。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。今のご意見に対して、いかがですか。よろしいですか。

私も林委員と同様に、そのように感じました。

SDGsというくくりだけではなくて、後半にもありますけども、中小企業が収益型からESG経営にシフトしていく段階で、やはりカーボンニュートラルの取組というのは、非常に大変ご苦労が多いただろうなというふうに察しますので、その辺を産技研がリードするというようなことが分かるような内容であればいいなと思いました。

【事務局】 意見をありがとうございます。そうしましたら、今のいただいた意見を踏まえまして、また再度ここは、修正させていただいて、改めてご相談をさせていただければというふうに思います。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。他にご意見はございますか。

武田委員、鈴木委員、大橋委員、いかがでしょうか。

【鈴木委員】 鈴木ですけど、私はこれで結構です。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。

【武田委員】 武田ですけども、今のSDGsのことも含めてなんですけども、やはり東京都の全体的な方針と都産技研というのが一致して動いていくという姿勢が見えたらいいなと思っております。

都としての中小企業はこうあってほしいとか、SDGsに対してとか、環境問題に対してこう取り組んでいくというところと、都産技研が歩調を合わせているというあたりが見えると、もっといいのかなというところです。

以上です。

【波多野分科会長】 今のご意見に対して、私もそのとおりだなと改めて思いましたが、いかがですか。

【事務局】 どう表現するかは、またご相談させていただければと思いますが、できるだけそういう方向でまとめていきたいと思えます。

【波多野分科会長】 よろしくをお願いします。

大橋委員、お願いします。

【大橋委員】 今まではSDGsって結構、ちょっと前までは結構代表的なものの一つだったんですけど、今は変化が激し過ぎて、もういろいろな指標が出てきますよね。

だから、「など」のってくりはいいんですけど、そこら辺は林委員とかおっしゃるように、少し工夫されたほうがよりよいかと思います。

あと、私、今日申し上げたいのが、最近読んだんですけど、国の基準のほうで、4月に出て、総務省だったと思うんですけど、これは普通の国の独立行政法人の業務運営とか、ガバナンスの在り方という文書が3枚くらいなんですけど出ていて、そこに、まさにこういったことが書いてありました。

例えば、これはマネジメントの件なんですけど、環境変化への機動的な対応を可能とするマネジメントとか、パフォーマンス向上とか、そうしたものがマネジメントできているとか、そういった指標も必要なんじゃないかというのが書いてあります。

ただ、今までを拝見すると、まさにそのような取組はされているので、国ともずれてないのかな、整合しているのかなと思って、先ほどから拝見していました。以上です。

【波多野分科会長】 すごく貴重な情報をいただきまして、ありがとうございます。

いかがでしょうか、それも少し反映した形、意識した形で。

【事務局】 はい、承知しました。ありがとうございます。

【波多野分科会長】 あとは、すみません、私のほうからジェンダー平等とか女性活躍という文言も何か少し古いかないかなという感じがしました。

要は、女性というよりもダイバーシティ・インクルージョンみたいな言葉で言われるようになっていかなと。その辺は私よりも大橋委員のほうがご存じかと思えますけれども、ジ

エンダー平等、女性活躍というのが、同じカテゴリーなので、その辺いかがですかね。

【大橋委員】 すみません、私が女性活躍とコメントしたような記憶があるんですけど、昨日、私、ほかの法人で、結局ダイバーシティですよねという話をしたので、確かに今、先生おっしゃったとおりだと思います。

以上です。

【事務局】 その点も修正をさせていただきたいと思います。

【波多野分科会長】 よろしくをお願いします。他によろしいですか。

それでは、他にご意見がないようでしたら、お諮りしたいと思います。こちらの意見書を当分科会の意見として付することにご異議はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、異議なしということで、以上で業務実績評価についての審議を終了いたします。

では、次に、その他としてよろしいですか。

今後の日程の予定を、事務局のほうからご説明お願いいたします。

【事務局】 皆様、ありがとうございます。

それでは、資料3をご覧ください。

本日、第3回分科会をもちまして、分科会としての意見につきましては確定いたしまして、この後、評価案を知事に諮り、評価を決定という流れになっております。その後、第3回都議会定例会に評価結果について報告する流れになっております。

分科会につきましては、この後は年度末の令和5年3月末に、令和5年度年度計画（案）の報告について、第4回分科会を開催する予定でございます。

また、本分科会ではございませんが、先日もご案内させていただきましたが、令和4年度第2回東京都地方独立行政法人評価委員会（親会）のほうが来月8月8日月曜日、15時から予定されておりますので、そちらのご出席のほうもよろしくをお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。

ただいまのご説明に何かご質問ございますでしょうか。

次回は第4回、3月。来年の3月末というところになりますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

親会のほうはオンラインでしたかしら。

【事務局】 オンラインでご出席承っております。

【波多野分科会長】

ハイブリッドですか、両方とも可能だということでしょうか。

【事務局】 またご案内させていただきます。

【波多野分科会長】 ありがとうございます。

皆さんも十分な意見が反映されていたということで、以上をもちまして、令和4年度の第3回試験分科会を閉会いたします。

皆様、どうも本日はありがとうございました。

午後5時25分 閉会

——了——